

キャリアパス委員会 年会企画報告

一昨年まで続いた「男女共同参画委員会」と「研究倫理委員会」の傘下に位置した「若手教育問題ワーキンググループ」が合体し、「キャリアパス委員会」が発足して早一年が過ぎようとしています。2013年12月、神戸年会において本キャリアパス委員会は、「ランチョンセミナー 2013 ～日本の分子生物学を牽引する、そして展開する 君たちへのメッセージ～」と題し、二つのランチョンセミナー「セッションⅠ：キャリアパスの多様性と可能性」（初日）と「セッションⅡ：21世紀のアカデミア、君たちは何を目指す？」（二日目）を開催致しました。両日とも400名に及ぶ参加者に恵まれ、盛況なうちに会を終えることが出来ました。来場していただきました参加者の皆様、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

「男女共同参画」＋「若手教育」＝「キャリアパス」。本委員会発足当初、多くの方々の御意見をいただき、最終的にこの“足し算”に落ち着いたわけですが、さて、これはどのような解釈なのか？と問われても、返答には困難極まるというのが実情です。「キャリアパス」の定義も、実は様々で定まるところを知りません。いい加減なこと！とお叱りを受けそうですが、本委員会のミッションは明白で、学会員、特に若手が直面する問題を把握し、その問題を克服するために必要な「知恵と勇気」を文字あるいは言葉に置き換え、提示（プレゼント）すること、だと考えます。扱うべき問題は、ワークライフバランス、属性、進路、就職、研究テーマ、倫理、云々、と様々ですが、今年我々はその中からノンアカデミックな「ベンチャー」とアカデミック寄りの「研究テーマ」という2つのキーワードを抽出しました。

1つ目のキーワードは「ベンチャー」。これによって、セッションタイトルにある様に、研究者がすすむ道として、アカデミックでも大企業でもなく、こんな選択肢もあるよ、と“多様性”を示したかったのです。そんなことは百も承知、という方もいるかもしれませんが、ベンチャー起業で成功をおさめた研究者の話を直接聞く機会は滅多にないであろう、と考えました。そして、ペプチドリームの起業で成功をおさめた東大院理の菅裕明先生と、菅ベンチャーと2人3脚を組む、ベンチャーキャピタル UTEC の片田江舞子氏に講演をお願いしました。菅先生は見た目も圧巻（失礼）、どこか私共とは違うオーラを普段から放っておられますが、アンケートには、話も判りやすく、お人柄が出た面白い発表でした、というコメントを複数いただきました。片田江さんは、東大理生化で学位をとられた直後に UTEC に就職された経歴をお持ちです。博士（理学）でありながらノンアカデミアで活躍される女性として、しかもお気づきになった方も多いかもしれま

せんが、来春に出産を控えておられ、若手、特に女性のロールモデルになること必至で、今回講演に来ていただいた効果は大きかったと自負しています。

2つ目のキーワードは「研究テーマ」。サブキーワードは「アカデミア」です。ベンチャーというノンアカデミックなキーワードとは対照的ですが、それ故より多くの方達に興味をもっていただけるのではないかと、という考えに基づいています。講師には東大名誉教授堀田凱樹先生をお招きしました。特権で、講演前後、個人的にお話をさせていただく機会がありましたが、若い頃は、コンピュータをご自身で組み立てて使っていた、今でもコンピュータが大好きで家に数台もっている、ということでした。Steve Jobs の様ですねと申しましたら、僕は、金儲けは無理、と仰ってましたが、真に受けるかどうかは別として、優秀さにも多様性があることを実感させられました。

菅先生、片田江さん、堀田先生には、年末の貴重な御時間を頂きまして心より感謝しております。委員一同、改めて御礼申し上げます。

ランチョン後に行ったアンケートには、「大変面白かった」、「勉強になった」、「自分の進む道のコンパスを手に入れた気がする」などポジティブなコメントを数多くいただきました。我々の思惑通りに若手を鼓舞できた様で、冥利に尽きます。同時に、「討論の時間がもっとほしい」「複数人の話がきけたらもっと良い」といった提案もありましたので、来年以降の参考にさせていただきたいと思います。「（ベンチャー起業は）自分には無理かも」という意見もありました。自分自身を見直す機会になったのであれば、それはそれで本企画に意義があったといえるのではないかと思います。

早速、2年目となる2014年の年会企画の準備にとりかからなくてはなりません。毎年（若手教育WGにいた頃から）、次のテーマを何にするか、は課題です。アンケート中、「来年以降、取り上げてほしいテーマは何か」という問いがありましたが、様々な提案をいただきました。これを参考に、皆で知恵をしばってより良いテーマを選んでいきたいと思います。個人的な意見で恐縮ですが、今回の、そしてこれまでの経験から得た印象なのですが、若手は「もっといろいろな話が聞きたいし、もっと会話もしたい」のではないかと感じています。研究を進めるには周りの人々との会話、そして交流は不可欠ですが、ラボメンバーの入替わり、面白い話題やエキサイティングな結果はそうそうあるものではありません。研究者は実に単調な、忍耐の要る日々を過ごしがちです。かといって、突然隣のラボを訪問し、先生に、何か面白い話を聞かせてください、といっても相手にされないの

がおちでしょうし、そうする時間も殆どありません。年
会で、こういった要望に答えるための企画があってもい
いかな、と、漠然と徒然なるままに考えたりもしていま
す。

キャリアパス委員会の大きなタスクの一つに「属性調
査」がありますが、これに関わるコメントも沢山いただき
ました。「積極的に女性を登用すべき」といったコメ
ントもあれば、「無理にしなくてもよいのでは」といっ
た声もありました。これらの声が女性から発せられたの
か、男性からなのか、今となっては判りかねますが、女
性自身が、自分の置かれている状況が周りの男性のそれ
に比べ不当だと感じている、あるいは本当はもっと表に
出て活躍したいのだけれど足踏み状態、であるのなら、
そっと背中を押してあげる必要があるでしょう。

昨秋、EMBL主催のミーティングに「The Non-
Coding Genome」がありました。私はこれに参加しまし
たが、これを機にちょっと振り返ってみました。4日に
わたる会議で参加者は400名強、口頭発表者40名のう
ち女性は16名、40%に相当します。16名は全てPIで年
頃は30代から60代と幅広く、また、Jennifer Doudna、
Narry Kim、Edith Heardなど、ちらっと見かえした
だけでも「ママさんPI」が目につきます。分生で今、40%
を達成することは、残念ながらほぼ不可能に近いでしょ
う。何故なのか？ ひとつは、母集団が追いつかない。
もう一つは、もう聞き飽きたかもしれませんが、日本の
若手女性研究者は、周りにロールモデルがいなく、一線
で活躍することを「特殊」だと思いがちだからだとも
います。では、その考えを払拭するにはどうしたら良い
か。身近にロールモデルがいないのであれば、遠くに頼
るしかない。例えば、先ほど示した様な海外の学会に積
極的に参加してみる。研究の新しい種を拾うと同時に、
女性研究者の在り方を知り、自分を鼓舞するために。出
来るなら話しかけて生の声を聞く。彼女達は、明るく思
考がpositiveで、積極的でそして魅力的です。第一線で
活躍しているから、ともいえるでしょうが、裏をかえせ
ば、女性だって子供がいたって第一線でやっていけると
いうこと。遠くても近くても彼女達を観察する、そして
接する機会があると、自分にもできる！と思える様にな
るかもしれません。

日本には現在、分野を問わず、女性を起用しましょう、
女性率を30%まで上げましょう、という動きがあります。
日本の人口は減少の一途をたどっており、若年層も減少
しつつある、それを補うための策略ですが、“女性の声
を聞く耳持たない現象”がここでもおきていて、なんと
なく可笑しく思えます。研究を続けたい、研究者になる、
家庭をもつ、あるいは母になるということを選択できる
ということは何と恵まれたことでしょう。そうしたけれ
ばそうすれば良いし、そうしないと決めることも勿論出
来るのです。ただ、一旦そうする（なる）と決めたら、

ATPは少なからず要る。ですが、これはどの世界でも
どの分野でもほぼ同じ。ライフサイエンスに限ったこと
ではないこともここに記しておきます。

女性が、男性が、自分がどうしたいのか、どうなりた
いのか。生の声をどんどんひろいつつ現状を理解すると
共に、多くの人にとってよりよい研究環境が整うことを
願っています。

キャリアパス委員会
委員長 塩見美喜子

【セッションⅠ：キャリアパスの多様性と可能性】

●日 時：2013年12月3日(火) 11:45～13:00

●会 場：神戸国際会議場 3階 国際会議室

●講 演：

「ベンチャー起業「夢と野望」の心得とその功罪」

菅 裕明（東京大学大学院理学系研究科）

「大学発ベンチャーへの起業・事業開発に対する
VCの役割」

片田江舞子（株式会社東京大学エッジキャピタル）

本年度のキャリアパス委員会主催のランチョンセミ
ナーは2つに分けて開催されました。一つはキャリア
パスとしてのベンチャー企業について知ろう（セッ
ションⅠ）と言うもの、もう一つは研究テーマについ
て考えよう（セッションⅡ）でした。超満員となった
ランチョンセミナーの参加者は、約400名（内訳：会
場着席350、立見50）で、このうち、セッションⅠで
は「235名」の方がアンケートに協力下さいました。
アンケートの結果はとても面白かった、まあまあ面白
かったと言う意見を合わせると前半の講演も後半の議
論も7割を超えており、総じて好評だったと言うこと
が出来ると思います。また、このような試みが続ける
か否かについても8割の人が是非と回答していること
からも、企画した側としては一安心しました。個別の
意見の中にはやや辛口の意見も見られますが、概ね「ベ
ンチャー企業に対するイメージの変革」につながった
と言う回答が多く、これも当初の目的を達したと考
えております。この場を借りてあらためて話題提供い
ただいた片田江様、菅先生に感謝します。

今、日本では政府主導でより応用面を重視した方向
へ研究のあり方が変えられようとしており、我々基礎
研究者はそのことに異を唱えつつも、時代に合わせて
自分の研究のあり方、売り込み方を必然的に考え直さ
なくてはならない局面に居ると思います。そういう意
味でも、今回のセッションは良い話題提供となったの
ではないかなと思っております。来年度以降も、また
形を変えつつ、キャリアパスについて様々な方向から
再考して行きます。引き続きよろしく願います。

（文責：座長・白髭克彦）

【セッションⅡ：21世紀のアカデミア、君たちは何を目指す？】

●日 時：2013年12月4日(水) 11:45～13:00

●会 場：神戸国際会議場 3階 国際会議室

●講 演：

「未来を見通した研究テーマの選び方」

堀田 凱樹（東京大学名誉教授）

昨年の「コミュニケーション、プレゼンテーションの達人になる」（通称コミュプレの達人）を受けて、年会二日目のセッションでは、プレゼンテーションの内容、つまり研究テーマについて考えてみました。研究者を目指す若者にとって、研究テーマを何にするかは、非常に重要な問題です。シンポジウムの前半では情報・システム研究機構の元機構長で東大および国立遺伝研名誉教授の堀田凱樹先生に基調講演をお願いしました。堀田先生ご自身、将来を見越した発展性のあるテーマを常に模索されていたそうです。研究室選びでは学内外を問わずいろんなボスに会いに行き、また論文を読み、それがその後大変ためになったとおっしゃっていました。与えられたテーマをただやるのではなく、自分で調べて考えるという努力を今の若者にもっと期待されています。ご講演の内容については是非全文記録（HPに掲載）をお読みください。大変ためになります。

また、セッションの後半で行いましたパネルディスカッションでは、ケータイ端末をつかって会場の意見を聞きながら研究テーマの選び方について考えてみました。アンケートサイトには多くのアクセスがあり大変盛り上がりました（会場参加者400名）。練習設問では会場の皆さんの属性を伺いました。やはり「若手（学部学生、大学院生、ボスドク）」が68.5%と多かったです。設問1) 所属研究室を選んだ理由は？では、「テーマや興味で選んだ」が61%でした。健全な結果だと思いますが、私が学部4年生だった頃を思い出すと、選ぶ段階でどのくらいその研究室のテーマ（内容）を理解していたかは、疑問です（笑）。「PI（ボス）で選んだ」は13.6%でしたが、実はもっと多いと思っていました。PIの人柄や研究に対する情熱は研究室選択の大きな要素になると思っておりましたが、案外気にしてないんですね。設問2) 研究テーマに満足していますか？では65%の方が「満足している」と答えています。「満足していない」、「どちらともいえない」の計32.3%を大きく引き離しています。設問3) 満足している理由は「面白い、興味をそそるテーマ」が一

番多くなっています。逆に設問4) 満足していない方の理由は様々でしたが、「部分的で一貫性がない、他の人のお手伝い的なテーマ」が22.8%と高率なのが目立ちます。これに関してはPIの責任が重いですね。次に設問5) 研究室や分野の変更についての考えを教えてください、では66.5%が「もっと面白い分野があったら積極的に変更したい」を選んでいました。パネリストからの意見にもありますように非常に健全だと思います。実際に変更するには勇気と強い意志が必要だと思いますが、是非実行してもらいたいです。それで設問6) 現テーマの将来性の有無、についてもお聞きしました。「将来性がある」は「ノーベル賞級の将来性」と合わせて64.6%とかなりの高率です。すばらしい！母集団が当セッションに参加するようなモチベーションが高い若者ですから、個人的には「ノーベル賞級の将来性6.4%」がさらに高いとよかったです。もっと遠慮せずにノーベル賞を狙ってください。続いての設問7) 将来やりたい研究テーマを心に秘めている？では、「はい」が48.9%と約半分。「いまはまだないが、必要性は感じている」が35.2%。合わせて84.1%。これは大変楽しみです。皆さん、虎視眈々とチャンスがうかがっていますね。是非既成概念を打ち破るような研究テーマを見つけて、実行してください。最後に設問8) 将来さらに発展すると思われる分野は？面白いことに「iPS」、「ヒトゲノム」を抑えて「まだ姿が見えない新分野・異分野融合研究」が29.8%とトップです。まだ何か未知なる大発見があると信じている人が3割近くいます。私も実はその一人です。

さて、全体を総括して「いいテーマ選びとは」堀田先生のお話にもありましたように、特にアカデミックでやっていこうと考えている人は、やはり将来を見越して考えるべきです。誰かが考えた続きをするのは、練習あるいはサイエンスの「作法」を学ぶためにはいいのですが、そこまでは。大学院を修了した段階で、そこから最低30年はこの世界にいると仮定して、生涯にわたって情熱を注ぎ込めるテーマを若い時から模索しておくべきです。また「新分野・異分野融合研究」に期待するのであれば、人と同じことを考えていてはダメですね。常に既成の研究分野に対して問題意識を持ち、視野を広げておく必要があります。

私もちょうど50才になり、この世界に入ってから20数年が経過してしまいました。そろそろラストパートをかけなければと感じています。研究者という職業を選んだこと後悔しないために。

（文責：座長・小林武彦）

〈アンケート〉 集計結果（四捨五入しています）

【問 1】 あなたの年齢は？

	セッション I		セッション II		合 計	
① 24 歳以下	59	25.1%	68	30.4%	127	27.7%
② 25 ～ 29 歳	49	20.9%	52	23.2%	101	22.0%
③ 30 ～ 34 歳	36	15.3%	35	15.6%	71	15.5%
④ 35 ～ 39 歳	27	11.5%	26	11.6%	53	11.5%
⑤ 40 ～ 49 歳	39	16.6%	24	10.7%	63	13.7%
⑥ 50 ～ 59 歳	21	8.9%	18	8.0%	39	8.5%
⑦ 60 歳以上	3	1.3%	1	0.4%	4	0.9%
※未記入	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
計	235		224		459	

【問 2】 あなたの身分・職階は？

	セッション I		セッション II		合 計	
①学部学生	27	11.5%	25	11.2%	52	11.3%
②大学院生（修士）	44	18.7%	51	22.8%	95	20.7%
③大学院生（博士）	37	15.7%	42	18.8%	79	17.2%
④ポストク	28	11.9%	25	11.2%	53	11.5%
⑤大学教員（助教・講師・准教授）	45	19.1%	47	21.0%	92	20.0%
⑥大学教員（教授）	14	6.0%	11	4.9%	25	5.4%
⑦研究員	7	3.0%	4	1.8%	11	2.4%
⑧主任研究員・チームリーダー・室長以上	9	3.8%	5	2.2%	14	3.1%
⑨企業	17	7.2%	10	4.5%	27	5.9%
⑩その他	7	3.0%	4	1.8%	11	2.4%
計	235		224		459	

【問 3】 このセッションを何で知りましたか？（※複数回答可）

	セッション I		セッション II		合 計	
①学会ホームページ	45	17.2%	55	22.0%	100	19.5%
②年会ホームページ	43	16.4%	48	19.2%	91	17.8%
③会報	3	1.1%	3	1.2%	6	1.2%
④プログラム集	73	27.9%	95	38.0%	168	32.8%
⑤ポスター	7	2.7%	7	2.8%	14	2.7%
⑥会場内の広告	65	24.8%	28	11.2%	93	18.2%
⑦フェイスブック	1	0.4%	0	0.0%	1	0.2%
⑧クチコミ	14	5.3%	13	5.2%	27	5.3%
⑨その他（ランチョンセミナー整理券引換デスク）	5	1.9%	0	0.0%	5	1.0%
⑨その他（通り掛かり）	2	0.8%	0	0.0%	2	0.4%
⑨その他（記述なし）	2	0.8%	0	0.0%	2	0.4%
※未記入	2	0.8%	1	0.4%	3	0.6%
計	262		250		512	

【問 4】 このセッションを開催した時間帯はどうでしたか？

	セッション I		セッション II		合 計	
①ランチョン形式でよかった	226	96.2%	218	97.3%	444	96.7%
②ランチョン以外の時間帯がよかった	3	1.3%	4	1.8%	7	1.5%
※未記入	6	2.6%	2	0.9%	8	1.7%
計	235		224		459	

【問5】前半の講演はいかがでしたか？

	セッションⅠ		セッションⅡ		合 計	
①とても面白かった	119	50.6%	150	67.0%	269	58.6%
②まあまあ面白かった	83	35.3%	60	26.8%	143	31.2%
③普通	20	8.5%	10	4.5%	30	6.5%
④あまり面白くなかった	3	1.3%	3	1.3%	6	1.3%
⑤つまらなかった	4	1.7%	0	0.0%	4	0.9%
※未記入	6	2.6%	1	0.4%	7	1.5%
計	235		224		459	

【問6】後半のディスカッションはいかがでしたか？

	セッションⅠ		セッションⅡ		合 計	
①とても面白かった	97	41.3%	67	29.9%	164	35.7%
②まあまあ面白かった	71	30.2%	96	42.9%	167	36.4%
③普通	40	17.0%	24	10.7%	64	13.9%
④あまり面白くなかった	4	1.7%	14	6.3%	18	3.9%
⑤つまらなかった	1	0.4%	3	1.3%	4	0.9%
※未記入	22	9.4%	20	8.9%	42	9.2%
計	235		224		459	

【問7】今後このような試み続けるべきだと思いますか？

	セッションⅠ		セッションⅡ		合 計	
①是非続けるべき	188	80.0%	167	74.6%	355	77.3%
②続けるべきだが方法を変えた方がよい	24	10.2%	41	18.3%	65	14.2%
③やめた方がよい	0	0.0%	1	0.4%	1	0.2%
④わからない	13	5.5%	9	4.0%	22	4.8%
※未記入	10	4.3%	6	2.7%	16	3.5%
計	235		224		459	

【問8】このセッションに関する感想をお聞かせください。

〈セッションⅠ〉

- ・ベンチャーキャピタルとベンチャーの関係、ベンチャーとラボとの関係がよかった
- ・支援する側、される側の実体験が本人から聞けて面白かった
- ・ベンチャー、産学連係の仕組みを学ぶことができ、良かった
- ・普段考えないような、ベンチャー企業の意義についての話を聴くことができて良かった
- ・基礎研究をビジネスにつなげることが苦手な日本において、大変参考になる話だった。MOTを勉強しているので、面白い内容かつ刺激的だった
- ・ベンチャー企業へのイメージが変わった。社会ではそれこそ Google や Apple などの大成功例しか知ることができないので、実際に近い分野で地に足の着いた成功（またはそのステップアップ）例を知ることができるのは実感が得られ、大きい
- ・ベンチャー企業に関わる方々のお話を聞く機会がなかったので、大変興味深かった
- ・日本のベンチャーが育たないと言われていた環境が改善されていく可能性を感じられた
- ・VCにあまり馴染みがないので、とても勉強になった
- ・研究をしている中で研究成果が社会に還元出来たらどれだけ素晴らしいだろうと感じることが多くあります。そのような中、ペプチドリームのような成功した会社が存在することに非常に希望を持てると感じた
- ・ベンチャー企業とその周囲の成り立ちについて、漠然としてしか知らなかったが、システムティックな計画を立てて成功していると聞き、これまでのイメージが必ずしも正しくないのだと思った
- ・ベンチャー企業に関することは素人の知識だったので、どの程度リスクリーなものか分かり、興味深かった
- ・ベンチャーキャピタルの方のお話を伺うことはこれまで無かったのでとても新鮮だった
- ・ベンチャーに入るのは自己責任。教員が指導する様なものではないというのは、その通りだと思う
- ・ペプチドリーム社の設立経緯についての説明はすごくためになった
- ・ベンチャー起業の実態をご本人から聞く機会がないので興味深く、面白かった
- ・ベンチャーのことを詳しく知らなかったので、いい機会だった
- ・東大のTLOはすごいと思った。ベンチャーのなり立ちがよく分かっておもしろかった
- ・UTECの存在を知れて良かった
- ・前半の講演で、もっと深い話があると良かった。キャリアパスの可能性の1つとして、ふわっとした表面的な理解ができただけに思える
- ・前半部は特に新しいことはなかった。後半部は一つの成功例と個人の考え方がきけて、おもしろかった
- ・前半:CUについてよく分かっていなかったの、わかりやすく理解できました。後半:ベンチャー立ち上げから今までのこと、ほとんど知らなかったため、とても面白かった
- ・講演などで、もっとベンチャーのネックや失敗の例を多く示してほしい。それにより、成功の話が、何が必要かが見えてくと思う

- ・ベンチャー企業の成功例、失敗例を出して欲しい
- ・PeptiDream という具体例がきけてわかりやすかった。失敗例があればよかったかも
- ・1人目の方に質問して、答えてらう形で、良い話がきけた。講演がよくなかったのはパッションなかったから。菅先生、具体的で非常に良かった。司会、いろいろな話をひきだして、うまかった
- ・ビジネスとサイエンスのインタラクション方法を話して頂いたのが（聞けたのが）初めてでしたので、興味がもてました。このような How to の話って貴重だと思った
- ・アカデミックな話だけでなく、このようなビジネスの話を開け、新鮮だった
- ・ベンチャーの話聞き、すごく興味を持っていました。今就活しているので、今日のセッションを聞き、少し考え直し、企業を選ぶ時、ベンチャーみたいところに仕事ができたらでもかなりいいと思った
- ・非常に参考になる話で、普段考えないでいることを考える機会になった
- ・今後の事を考えるために、とても興味深いお話を聞くことができ、とても良かった
- ・アカデミア、大学における産学連携にあり方について、学会から提言できるようになれば、素晴らしい。←自分の研究室をベンチャー企業としている / みなしている教授が多くなっているのでは？
- ・アカデミックと企業の住み分けを厳密にしていこうと思った以上に重要なんだと思いました。その分、アカデミックと企業との距離が近かった、ということに驚いた
- ・実際に大学の研究者の方で起業された方のお話が伺えてよかったです。産官学、ラボ内は私もわかるべきと共感した
- ・起業までの流れから、就職時のメリット、デメリットが聞けて良かった
- ・起業したいという気持ちが少しでもある学生の背中を押すものでした。具体的にイメージすることができた
- ・ベンチャー業界の成熟や流動的な雇用への慣れのようなものが求められているのかなと思った
- ・ベンチャーに向く、向かない基礎研究というのは、現場の人間には判断がつきにくい、VC とラボの関係がより緊密である必要があると思う
- ・生の起業者の声が聞け、興味深い内容だった
- ・後半のディスカッションで、ベンチャーに対する参加者の理解が低く、驚いた
- ・研究とビジネスは違うということは、その通りと思った。産学連携の話の無理さ加減を何とかしてもらいたい
- ・普段聞くことがない起業について具体的な話を聞くことができてよかった
- ・リスクに対しての何らかのセーフティネットなり、生き残るプランなりの観点についてあまり語られ語られていなかった気がした
- ・失敗した人の話等も聞きたかった。発明者（学生）やベンチャーで働いている人からの意見も聞きたかった
- ・パネラー（質問する側）があまり議題に興味をもっているように見えず、盛り上がり欠けていた。回答側はとても良かった
- ・ペプチドなど成果＝商品となりやすい分野でのベンチャーは立ち上げやすい（投資されやすい）と思いますが、成果から商品化までに時間がかかる分野でのベンチャー立ち上げは可能か、あるいは商品化までの時間軸の間のサポートはあるかどうか、などを知りたいです。難しい事例も示してもらえるとより良いと思った（成功例は 2/10 程度とのことなので）
- ・詳しく、具体的で、知らない世界が知れて良かった。ベンチャーへの偏見が無くなった
- ・研究と企業を興すという事の難しさがよく分かった
- ・初めて知る内容ばかりでとても興味深かった
- ・演者もパネラーも良かった。分生では本音が聞けて良い
- ・初めて聞く話ばかりだったので楽しかった
- ・面白かった。これからの研究者は自分でお金を生んで行く事が必要だと思っている
- ・具体的にベンチャーに適する（実際に会社として成功している）技術の内容について知りたかった
- ・ベンチャーに対する見方が変わった。大変興味深かった
- ・演者の先生、素晴らしかったです。塩見先生のつつこみでさらに理解が深まった
- ・ハイリスクをとる勇気が大切であると思った
- ・どんなトピックもそうですが、すんなり成功した例を挙げるセミナーよりも、苦しんだけれど成功したという事例を挙げてもらう方が良く思う。現実にはすんなり成功する人達ばかりではなく、このような事例ばかり挙げていても学生やポスドクに対してプラス効果は限定的と思う
- ・現在 TLO に相談中なのですが、今後 UTEC に問い合わせしたい
- ・私自身が研究成果よりもやはり社会に直接還元できるように働きたいと改めて気づききっかけになった
- ・普段考えないことで勉強になった
- ・「アカデミア研究を守るための企業」というのが印象的でした。製薬企業の研究は、研究に特化しがちなので、多種多様な仕事に携わることができるベンチャーに、ある種憧れる面もある
- ・研究者として、研究だけに終わりたい身にとっては、ベンチャー企業に入社するのは非常に良い選択肢だと思った
- ・話は興味深く、つっこんだフランクなところが良かった。しかし、パネルディスカッション、ほとんど教授さん達…。ポスドクでベンチャーで働いている人の意見も聞きたかった
- ・キャリアパス委員会で、色々な業種のお話をされるのはとても良い試みであると思った
- ・セッションを通して、ベンチャー企業に興味を持てた
- ・各分野（経営、マーケ、研究）の専門家をまとめる力、会社の雰囲気を作れる人がトップに立つべきかと思った
- ・難しいとは思いますが、どういうベンチャーが成功しやすいのか、傾向を分析している資料があれば、面白いと思いました。日本におけるサイエンスの方向性とも大きく関係してくると思う
- ・思ったよりフランクな議論で面白かった
- ・とても面白かった。複数の企業の例が出ているとさらに良かった
- ・菅先生の話が分かりやすかった
- ・菅先生の人柄の良さがわかった
- ・後半がすごく良かった
- ・アカデミアとビジネスの区分けについてとても勉強になった
- ・セミナーチケットがとれなかったのが偶然参加したが、非常に面白かった
- ・ベンチャーに対する理解が深まった
- ・キャリアパスはどんな物かよくわかった
- ・博士を取った後の興味深い話だと感じた
- ・就職活動を行っている立場として、大変参考になった
- ・新しい試みで良いと思う

- ・異なる観点を持ったので、他の人に伝えたい
- ・普段聞けないことが聞けて良かった
- ・研究以外ビジネスに関するテーマで半日セッションを組んで頂いたら面白いと思う
- ・テーマとしては面白かったが、“キャリアパス”には直結しない気がした
- ・ターゲットが不明。会員に広く「ベンチャー起業」を紹介したいのか？もっと人数を減らして、「ベンチャー起業」に興味のある人だけを集めてやったほうが良い。参加者のほとんどは他のランチョンセミナーに入れなかったからここにいるように見える
- ・パネラーの質問が的外れのような気がした
- ・ディスカッションが長いので、もうちょっと自由に参加できるようにしてほしい
- ・パネリストの人選を工夫してみても良いのではないかな
- ・修士の私には少し遠い話題だったかもしれない
- ・1つのテーマに絞られ過ぎている。もっと広いテーマを扱ってほしい
- ・演者が話すだけでなく、討論があったのはとても良かった
- ・研究者は、ビジネスを理解していない、よってベンチャーはうまくいかないと思う
- ・会場からの質疑がもっと活発にできる形式が望ましいかと思った
- ・自分には無理かな？
- ・すばらしい成功例。少し遠い話かな
- ・大事なテーマ、美味ランチョン！
- ・次回も期待しています
- ・大変勉強になりました
- ・大変興味をもちました
- ・非常におもしろかった（同コメント計2件）
- ・ありがとうございました（同コメント計3件）
- ・とてもためになりました！
- ・参考になった
- ・良かった（同コメント計2件）

〈セッションⅡ〉

- ・研究してる人は、多かれ少なかれ迷いを抱えている。こういうセッションはその一助になる
- ・エスタブリッシュされた方の業績はよく見聞きするが、考え方を聞けることはあまりないので、面白かった
- ・今後の実験研究をまず考え直そうと思った
- ・自分の興味と将来性、やはりどちらも重要だと感じました。「自分が不便だと感じる事をテーマのヒントに出来る」という話は、すごく納得できる話だった
- ・将来の見通しをしっかりと考えるのが大切なんだと改めて感じた
- ・研究者の方々が気づいたことを聞けることが出来たので、とても有意義だった
- ・将来の自分について、今から見通す機会を与えてくれるという点で、非常に有意義だった
- ・研究者が自分の研究テーマをどのように考えて選択してきたかを聞く機会が得られて、非常に参考になった。特に学生、大学院生に良いヒントを与えたのではないだろうか？
- ・今後の研究生生活を行っていくに当たり、数多くの参考になった「自分が育つ良い人材を育てる」
- ・若手皆が共通して不安に思う事が多いテーマだと思うので、非常に良い試みだと感じる
- ・堀田先生のような大先生に、昔どのようにして研究テーマを選択したのか伺えたのは良かった
- ・さすが堀田先生です！これまで生命科学の研究の歴史と2053年に起こる革命の予測まで非常にスケールの大きい話をユーモアを交えてお話下さり、感銘を受けました。1日目にもこのようなベテランの科学者のこれまでの歩みを含めたお話を聞きたかった
- ・面白いと思ったことはとことん。金も重要だが、やっぱりこれ！
- ・50年ベースの考え方というのは、楽しく、若い方にも魅力的かと思う
- ・どうやったら、自分の一生をかけて研究したいテーマに巡り合うか、ということだが、多くの院生は、1～2年でそのようなものに合えなければ、就職の方向に流れてしまう。これを止めない限りは、研究者数の減少は激しくなると思う
- ・長期的なテーマを見据えて、今のテーマを決めているのだなあー、と思った
- ・自分の進む道のコンパスを手に入れた気がする
- ・年會に参加（発表）している学生等は、現在のテーマにあまり不満がないのでは。むしろ参加出来ない学生等の意見を聞きたい
- ・複数人のお話を聞けるともっと良かったと思う。堀田先生は、とてもしっかりされているので、大変聞きやすく、面白いお話だった
- ・前半のお話は、非常に面白かった
- ・前半の堀田先生の話は面白かった。後半のディスカッションでは、パネリストの方々が割と教科書的に優良回答をしていて、面白みが小さかった
- ・様々なバックグラウンドの先生方のパネルディスカッションは多くを学ばせていただいた
- ・後半の話が楽しかった。コメント出るのが◎
- ・他の学生等の意見が聞けたのが良かった
- ・設問を見て「満足」している人が多くてびっくりした。今後も開催してほしい
- ・学生の無知で素直な本音が結果として表れたのではと思った。だから先生方の指摘及び正直な話が面白かった
- ・“博士へのキャリアパス”かと思って聞きに来たが少し違った。具体的な“将来性のある（と思う）研究テーマ”がどんなものか聞いてみたかった
- ・皆さんの簡潔で濃縮されたお話がとても面白かったです。最前線の方々は人柄的にも魅力的なのだった
- ・他者（研究者）の意見を聞くことができて面白かったです。次回もこのようなセッションが増えると嬉しい
- ・これから伸びる分野にもっと冒険があっても良かった
- ・同じく研究に励む人達の自身のテーマについての本音を聞けて面白かったです。アンケート形式の進行も楽しく、飽きることなく聞けた
- ・個人的なことを聞くことができたので良かった
- ・Webでの参加システムは非常に面白かった

- ・他の人のコメントが面白かった。もっと本音を聞きたい（参加者もパネリストの方も）
- ・名大の先生、石井先生が一番まとも。石井先生の最後のコメントすばらしい
- ・会場でのコメントにもあったが、ある程度積極的になれているヒトの集団である可能性が高ので、集計はそこを考慮すべきかと思います。会場でのコメントで、生な声を知れたのは、良かったと思った
- ・後半が面白かったので、来年も参加したい
- ・スマホを使うというのが新しいと思いました。参加型は良いと思う
- ・アンケート形式で面白かった
- ・私と立場が違う人が多いので、若い人でやる気のある人が集まっていますね
- ・参加型のセミナーが面白かった
- ・思っていたより面白かった
- ・セッションの設定はとても健全。科学者からの発信としては正統的で良かった。一方、基礎科学を守り、発展させるための政策提言にどう反映させるかが課題
- ・他の人の意見が聞けて良かった
- ・参加型で面白かった
- ・普段聞けない話が聞けて有意義だった
- ・普段自分で気づかない問題が提起されて良い機会だった。リアルタイムコメントは面白かった
- ・Real time でコメント出来るのがとてもいい
- ・研究者が意識し、考えるべき課題だと思うので、やるべきセッションだと思う
- ・勇気もらった
- ・これからまた頑張ろうと思った
- ・後半、リアルタイム（参加者の）アンケートを取り入れたのは、面白い試みと思う。参加している、という気がして、楽しんで参加できる。テーマに満足している人が65%でホッとした
- ・全体的に面白かったが、もっとコメントに対してつっこんだディスカッションがあれば、楽しかったかなと思った
- ・後半の議論が消化不良のように思いました。コメントに対してもっと対応しても良いと思う
- ・コメントがリアルタイムで見られるのがとても面白かった。なので、そのコメントをもう少し取り上げてもらえると、もっと参加できると思った
- ・聴衆参加型は良いと思うが、ディスカッションになっていないと思った
- ・面白いコメントをもっと拾ってほしい
- ・ディスカッションがあまり盛り上がっていなかった
- ・パネリストのコメントが無難で面白くない
- ・コメントがたくさんあるのだから、もっと拾ってください。パネリストの話が聞きたいのに、全く無かった
- ・当たり障りのないことが多く、根本的なところには触れていなかった（PIになれない人は？とか）
- ・いい話で終わってあまり踏み込んでいない
- ・もう少しコメントを拾う時間があればもっとよいと思う
- ・色々な人の意見が見れて良かった。もう少し、コメントに対して触れてほしかった
- ・ディスカッションの時間、話を聞く時間がもっとあると良かったです。コメント言及時間が少ないように感じた
- ・後半ディスカッションが、コメントがほとんど生かされてなかったのが気になった。自分の考えだけを述べるのではなく、質問に答える形をとらないとこのセッションの意味がない。何に面白かったのかも
- ・もう少しコメントを取り上げないと、あまり意味がないのでは？
- ・コメントに関してあまり触れていないと思った
- ・コメントに対す手、もっとパネリストは意見すべき。コメントをとる意味なし
- ・コメントへの回答をもっとすべきではないか？
- ・後半の段取りが悪い。コメントへのパネラーの反応があまりなく、インタラクティブになっていない。スマホで site をアクセスしても対応していないと〇〇〇あまり〇〇なディスカッションになっていない印象（想定内の反応、コメントばかりでつまらない）
- ・表面的な回答ばかりで、悩んでいる人のヘルプにはならなかったと思う
- ・意外と面白かった。ノウハウ的もありがたい。より深く議論される様に成長してほしい
- ・もっとコメントに触れてほしい。こういう問題を真面目にPIの方々が見ている場を見れて良かった
- ・コメントについて、もう少し取り上げるべきものがあったと思う
- ・コメントをうまく拾えていない。メイン司会がイマイチ。岩崎さんあたりの方が良い司会になれたのでは？
- ・せっかくコメントがみられるのであれば、もっと取り上げてそれについて議論してほしい
- ・質問をもう少し増やしても良いのでは？
- ・コメントをもっとたくさん拾ってほしい
- ・後半は手法は面白い。ただコメントと先生とのやりとりが多かったかは疑問。コメントがある分、ダイレクトなやりとりの時間も設けられていないし、時間が短いため仕方ない配分かもしれないが
- ・先生の話が良かった。ただコメントについて、より多く触れ、そのコメントに対するコメントで終わるのではなく、議論に持って行くと良かった。またその時間を長くするべき
- ・会場に向けて、何についてコメントをほしいのか明確に propose した方が、より有意義なコメントが多く得られたのではない
- ・コメントの取り扱いのテンポがよくない。テーマは面白かった
- ・アンケートの結果よりもリアルタイムで寄せられるコメントの方に注目してもっとパネリストからの意見を聞かせてほしい
- ・会場との対話がない
- ・パネリストのコメントをもっと聞きたかった。ありがとうございました。
- ・後半はちょっと… テーマに挑戦しなきゃいけないのは自明なのだから、それをどう立てるかとかをもっと聞きたかった
- ・PIとは何ですか？
- ・私はボスの立場として、学生や大学院生さんの気持ち分かって今回良かったと思う
- ・ランチョン券がお弁当と引換えに無くなったので、QRコードを撮るタイミングがギリギリでした。スライドも投票結果で使っているので、アドレスを常にどこかに表示してほしいです。入りそびれた方が困っていた
- ・ありがとうございました。楽しかった
- ・小林さん、お疲れさまでした

- ・ポジションを得る際、グラントをとる際の年齢制限が将来に対する不安を助長していると思う。アカデミアは職業として敬遠されても仕方ない
- ・イントロだけでも簡単に他分野の常識や、基本を楽しく知れたら嬉しい→出来ること、出来ないことなど
- ・ケータイを使った議論は面白かったが、テーマは特に魅力的にうつらない
- ・小林先生の司会が良かった。堀田先生が存在がよい
- ・前の字が小さくて見えなかった
- ・コメントをもっと有効活用してください
- ・昨年に続き、このセッションは良いと思う
- ・あまりまとまりのないセッションだったと思う。漠然としていた
- ・「エアプロジェクトを考えておく」というのは、若者へのいいメッセージだと思います。コメントにもありましたが、せっかくコメントを書いてもらっているのに、それについても、もう少し言及する方が良いと思う
- ・月並みな意見が多かった
- ・回答はできるが、なかなかコメントしづらい
- ・切り口は変えてもよいかも、たぶん結果は同じだから
- ・将来に対する、科学のあり方を考えるきっかけになった。面白い取り組みだが、まだちぐはぐ。これからも改良し続けてほしい
- ・リアルタイムでアンケート、コメントを募る形式は面白かった
- ・面白いセッションだと思いましたが、「キャリアパス」のランチョンとは違う気もした
- ・建設的なディスカッションだったとは思えません
- ・博士一泊スドクでターゲットをもっと絞ってやってほしい。又は、立場を分けてデータを出したのが見たい
- ・参加者の属性ごとにアンケート結果をソートすると、面白かったかも。コメントはネガティブなものが多かったので、それを元に会場とコメントーターとの間でのコミュニケーションは正直とれていなかった気がする
- ・Twitterの方が、気軽に書き込めると思う
- ・ネットをつなげる環境をもっていないので、参加出来なかった
- ・意欲的な企画だと思いましたが、アンケート結果が平凡で少し残念でした。やはり学会に来ているのは、ハッピーな人が多いですね。パネリストの方々の話はとても面白かったです。寄せられた負のコメントについて、もっと議論を深めてほしかった
- ・後半の時間を増やす。送られたコメントに対して、パネラーがコメントを返す
- ・画面が遠くて見にくかったので、手元のiPadでも見られると良かった
- ・アンケート選択肢が選びにくいものがあった
- ・事前にアンケートをとってからのの方がよいのではないかと思います。プラス、今回のようなコメントを集める感じで
- ・面白いので、もう少し時間をとってゆっくりやってほしいです。コメントの字が見えないので、次回はもっと大きくしてください
- ・時間が短い、コメントが取り上げられていない
- ・ちょっとトピックがばらけてしまったかもしれませんね。テーマが壮大だったから仕方ないのかもしれませんが
- ・わざわざ1時間15分もの時間をさいて聞く話ではなかった
- ・スライドのコメントの字が小さくて読みにくい
- ・画面に反映されるのが、より速いと良い
- ・学生のみで企画、司会をさせたら、もっと盛り上がると思います
- ・参考にはならなかったが、面白かった
- ・もっと長時間やっても面白そう
- ・時間が足りない
- ・斬新で面白かった
- ・ためになった
- ・面白かった
- ・楽しかった

【問9】 来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください。

〈セッションI〉

- ・ベンチャーキャピタルの評価シート等を知りたい
- ・ベンチャーの実際の立ち上げから、開発段階をもう少しわしく話してほしい（キャピタルの人に）
- ・ベンチャーの目標
- ・ベンチャーとして成功した後、さらに企業を成長させるために考えるべき事
- ・ベンチャー企業で働いている研究員の話が聞きたい
- ・ベンチャーキャピタルの判断基準がもっと知りたい　なぜベンチャーAは成功してなぜBは成功しなかったのかのケーススタディ
- ・ベンチャーで働く研究員の話
- ・ベンチャーに興味のある起業したい人を集める
- ・ベンチャーはまた来年も聞きたい
- ・学生向けにもベンチャーの良さを伝えてもらいたい
- ・今年同様ベンチャーの関係のテーマ
- ・同様に大学とベンチャーについて
- ・同じテーマで、異なる事例を、複数
- ・今回のような企画を継続的に実施してほしい
- ・成功例だけでなく、失敗例も知りたい
- ・キャリアパス（アカデミア、ベンチャーなど、研究分野以外への就職先について）→博士取得＝サイエンス分野で生きなくてはならないと思いこんでいる博士が多すぎる気がする
- ・大学におけるキャリアパス
- ・アカデミアに残り続けるキャリアについて

- ・アカデミックでのサバイバル
- ・PD、博士の実際
- ・D卒の就職の実際
- ・博士課程卒業後の間
- ・D修了以降の留学や就職の問題。どう選ぶか、どのようにコンタクトを取るかなど（D生の就活？）
- ・PIになるには？（体験談）、大学（アカデミア）における男女共同参画
- ・鳴かず飛ばずで終わりそうなポストドクの将来は？
- ・助教ポストをいかに増やすか、基礎研究費をいかに増やすか
- ・日本ももっと転職がスムーズにいく流れを作れるとか、やはりベンチャーは潰れるとか前提だとそれが大事になると思う
- ・単なる“研究”ではなく、将来的なマネジメントのやり方、学び方のようなテーマを取り上げてほしい
- ・リサーチ・アドミニストレーターの方のお話が聴きたい
- ・どうやっていい研究、将来的に役に立つ仕事を見つける？
- ・サイエンスコミュニケーション、Dr→企業 or アカデミア以外への就職など
- ・製薬、食品企業が求める人材像（修士・博士）
- ・研究の臨床応用について
- ・女性研究者のキャリアプランなど
- ・分子生物学の歴史などについて
- ・大学教員の年限（期限）について？
- ・特許の取り方
- ・失敗談

〈セッションⅡ〉

- ・今回の2日目のようなベテラン研究者の小講演の後、Web参加型の討論会と行うことを学会中の昼に2回やるのが良いのでは？
- ・同じテーマで良いと思う。毎回違う人が違う視点で、この大事なテーマを扱うと面白いと思う
- ・先人の方々の考えや、アドバイス、提言を聞ける。参考になり、ありがたい
- ・今回、お金、学振などの話、コメントが多かったので、それ系の話をしたい
- ・博士課程学生、ポストドクの今後のキャリアパス
- ・引き続きベンチャーや起業について
- ・実際に未来のプロジェクトを立てる企画 卓上→未来のプロジェクトのラフ画等を描いてみる
- ・研究に行き詰まった時、どうそこから打開策を見つけているのか
- ・凡人が生き残るためには
- ・それぞれの分野の最前線の人の経歴と内容を短時間に知るセッション
- ・研究テーマ（の分野）だけではなく点も議論してほしい。例えば、オリジナリティー、研究の影響（他分野への）等
- ・どうやったら研究者として生き残れるか？サバイバル術 いい研究者になるのに必要なテクニックは？
- ・「ボス側の本音」的な どうしても下っ端側が大多数なので
- ・オリジナリティーとは、をもっと突き詰めてほしい
- ・海外で活躍する博士号取得者（企業で働く人、企業を立ち上げた人、若手研究者等）の話を聞きたい
- ・これからの研究をしている人をもっと取り上げてほしい
- ・成功された方の話も面白いですが、失敗して後悔されている方の話も聞きたいと思った
- ・発表が苦手なので特訓したい
- ・研究以外の career path も discussion してほしい。例えばどうやって自分の専門知識を生かすか？
- ・博士ーポストドクのキャリアパスについて
- ・成功した女性研究者のコメントだけでなく、それを支えた周囲の人（ボス、夫）の話も聞いてみたい
- ・研究室内での人間関係で悩む人や、うつでラボに来られなくなってしまう人を救うにはどうしたらいいか
- ・研究者を目指す学生のためのキャリアプラン
- ・No.1で Only one になる方法
- ・予算がない状態でいかにやりたい研究をやるか
- ・研究費のあり方
- ・実験データの再現性・信頼性についての教育セミナー
- ・モチベーションの上げ方
- ・失敗事例集（ラボライフでも研究でも）
- ・みんなの悩んでいることを聞かせてほしい
- ・大失敗した人の話を聞きたい
- ・分子生物学に将来性はあるのか
- ・ポストドクの闇
- ・“挫折”、“劣等感”からの復活、逆転
- ・医師等
- ・数学・物理学者交えたセッション
- ・ラボ運営
- ・女性研究者として成功するためのチップス～（若手男性でも良いけれど、違いがあるのでは？）そこを掘り下げていただければ
- ・女性研究者について。出産と研究の両立
- ・留学の話、留学後の話
- ・研究テーマと倫理に関して
- ・分子生物学の重鎮たちをどう引きずりおろすか、とか
- ・適当なことを言う PI をどう処するか
- ・一緒に配られた女性比率の話は…？

【問 10】 本年会での属性調査（添付資料）をご覧になった感想をお聞かせください。

- ・女性には研究に専念する時間的制約が多いため、結果的に成果を出すのに時間がかかり、ポストを得られず上位職につけないため、オーガナイザーやシンポジウム演者に選ばれないのだと思う、成果が出せる様なサポート（人的、金銭的）が必要だと思う
- ・ラボを運営するような立場の女性（教授等）を積極的にオーガナイザーやシンポジストに入れて、若い女子研究員にロールモデルを示して欲しい
- ・思っていたよりも女性が少なく、シンポジウムとかへの参加も少ない
- ・面白い分析
- ・まだ女性が少ない、大学教員の女性比率を上げる必要がある
- ・自分自身（女性）が崖っぷちな気分なので身につまされる
- ・今年はワークショップへの公募枠がなかった、スピーカーの女性比率は公募枠を増やして、応募できるチャンスを均等に与えることによってこそ増加する可能性が開けると思う
- ・女性を増やすならば制度面で女性が研究できるサポート、託児所や給与体系の改善が必要、技術職が事務職的に長く働けたり、キャリアとして技術職を認める仕組みもあるといいと思う
- ・確かにシンポジウム、ワークショップにおける女性の比率は少ないと思う、それはPIの割合が少ないことを反映していると思う
- ・女性の方が忙しいのか、オーガナイザーなんてしている場合でないという心境の人もいるのかも、女性オーガナイザーを増やしたければ、連絡と調整を学会でサポートするとか、強引に指名するとか？
- ・女性が少ないことは理解していたが、海外と比較すると極端に少ないことがより理解できた、今後は私を含めた女性研究者の活躍を期待する
- ・やはりまだまだ女性の進出が進んでいないと感じた
- ・全体的に女性研究員が少ないことは感じている、女性研究員を増やすために、女性が研究しやすい環境を作らなければならないと思う
- ・女性がまだまだ少ない、修士から博士に進学する学生を増やしたり、ポストドクからポストを得る女性研究者の数を増やすことが重要
- ・女性が増えたとよい
- ・女性研究者や教員の増加が見られないので残念
- ・女性比率が少ないのは何故か？
- ・上級職になるほど女性が少ないとあらためて感じた
- ・ワークショップやシンポジウムのスピーカー＆オーガナイザーに強制的に女性を入れるのはどうかと思う
- ・スピーカーの男女比率は、スピーカーを選ぶオーガナイザーにも大きく依存していると思う、オーガナイザーには女子も応募・採択されやすい工夫も欲しい
- ・女性比率の低さに驚いた
- ・まだまだ女性比率が低い、女性にもっとチャンスをあげて欲しい
- ・どの学会でも、大学院生までは女性がある程度いてもその後が少ない
- ・就職（研究職など）の段階以降女性はぐっと減るのだと思った
- ・年齢が上がるほど男性の割合が高く、女性が少ないと感じた
- ・女性の場合、出産や育児で30代以降のキャリアが切れがちだと思う、もっとワークライフバランスを考えたキャリアパスが欲しいとあらためて感じた
- ・女性の比率が思ったより低くて驚いた、女性研究者が研究しやすい環境の整備というのが必要なのではないかと感じた
- ・女性発表者が少ないのに驚いた
- ・男性のスピーカーがこんなにも多いのだと思った
- ・女性会員の学会発表におけるスピーカー・オーガナイザーの比率が低いことは重要なポイントであると思った、論文発表が少ないからだとしたら、それは何故か？活発に研究発表できる環境を整備していく必要がある
- ・女性が両親ともに子育てをするのは難しいし、ある程度の年齢まで研究を持続できる人は少ないと思う
- ・女性が増えると男性も嬉しい
- ・やはり女性が1/2になるような学会が分子生物学会だったら、今後の発展が期待できと感じる
- ・ワークショップ・シンポジウム・オーガナイザーにおける女性比率の低さを再認識した
- ・変える（女性を増やす）ためにどのようなことをしているのか示してはどうか？
- ・ドクター、ポストドクが少ないのが意外だった
- ・もう少しバランスが良い方がいい
- ・興味深い
- ・意外に女性が少ない
- ・おかげで彼女ができない
- ・女性はやはりまだまだ少ないのだと思った
- ・女性比率を上げた方がよい、（セッションⅡ）パネリストの1/6女性は率が低いのでは？
- ・託児所に申し込む利用者の男女比の調査はあるか？
- ・大学での職に対する男女比はあまり意味があるとは思わないが、学会として女性のオーガナイザーや座長を増やしていくことは必要かと思う
- ・分野のせいかわ女性の割合が少ない
- ・トップに立った人がヒド過ぎる例が多すぎ、目立つからしょうがないかもしれないが
- ・目標の数字を掲げるといよりは、問題提示をして意識レベルの向上がまずは必要だと思う
- ・減少した女性がよい職についていけば問題ないと思う
- ・OK！
- ・意外と若年層が多い
- ・他の人がどのようなことを考えているかの傾向を見ることができて面白かった
- ・想像の範囲内
- ・女性の立場から、比率を上げるのはなかなか難しいと思う、男子・女子中高校別学をやめて男女共学にするところから始めるべき
- ・細分の専門分野より女性比率が高いことは良いと思う、ただしこれから女性が増えるためには中高生の段階での改革が必要

- ・年代別の女性会員では若い人が多いので、将来的に女性の割合は増える
- ・理系に進学する女性が少ないのでは？
- ・女性が本当にスピーカー・オーガナイザーに値する仕事をしているのか、データはそれを反映しているのでは？性差にこだわらなくて、研究内容や仕事で選ばなければならないのでは？女性だから、男性だからという視点がそもそもおかしい
- ・重要なのは、自由に入れて自由に続けられる事だと思う、やはり男女は違う、しかしやりたいと思ったらできる環境があるべき
- ・女性研究者は充実していただきたい
- ・この業界自体の男女比が違うため、女性の機会が少ないというわけではないと思う
- ・特に女性オーガナイザー、スピーカーを増やす必要性は感じない、そのうち増えるのではないかな？
- ・研究したい人はする
- ・男女比に神経質になり過ぎと思う
- ・男性、女性という性別でなく研究者として性別関係なく評価をして欲しい、性別自体が差別につながるのでは？
- ・（自分も含めて）女性も頑張らなければならない
- ・女性比率が低いことは確かだが、無理に参画を薦める必要はないと感じた
- ・私は女性ですが、無理に起用などをすると逆差別にもなってしまうかなと思った、理系の中では充分参画してるかと思う、皆様の活動のおかげだとも思い、こういった活動は素晴らしいと思う
- ・男女で同じ仕事をするのは難しいので、同じレベルの研究が求められるならば仕方ないことだと思う
- ・女性でもいい研究をしている人は話しているのでは？単にスピーカーを増やすとかそういう問題ではない
- ・女性が少ないのは女性研究者の減少を反映しているので、根本は理系人気の底上げが必要と思う
- ・こういう数字を見て、数字が達成されれば良いのかとやや疑問を感じる
- ・シンポジウムやワークショップで女性が少ないのは今後解消すると思う、性差関係なく選ばれていると思う、女性の参画が増えれば自然と増す
- ・私は女性ですが、女性比率を無理に上げる必要はないと思う
- ・女性PIや管理職が少ないというデータや問題提起は聞き飽きたが、実際それを改善するためのシステムの改良は真剣に為されているのか？周囲の女性研究者は子どもを抱えて止むを得ずアカデミア昇進コースから離れて行っているように見える
- ・女性の割合の低さに女性側の意識がどれだけ影響しているのだろうか？
- ・ポジションが上の人は男性が多い、教授レベルの人たちの発言が多い中で女性が発言するのは少し難しい、また、男性は出世欲があるが、女性はあまりなく、どのような立場でも研究できればいいと思っている人が多いのではないかな？
- ・女性の社会進出は本当に難しい問題だと思う、それを考えている女性は多いが男性はどうだろう？
- ・何が言いたいのか不明（女性参加はいい事だと思うが比率の問題ではないと思う、比率が低いと何故ダメなのですか？高くなると何故いいのですか？）、質とチャンスは別問題として考える方がいいと思う
- ・添付資料、裏表印刷できるなら、もっとまとめの字を大きくしていただければ
- ・細かなデータは見えない、字が小さい
- ・理由部分等がはっきりしていないので、単に数値だけでは分かりづらい
- ・そもそもの研究社会における女性数が何故少ないのかの考察がない、単に男女共同と言っても上手くはいかないはず、分生の会員だけで比べても何の意味も無いのではないかな？
- ・一学会のみ出てきても特に感想がない
- ・そもそも低いことの何が問題なのか、問題を詳細に浮彫にして欲しい
- ・スピーカーにもう少し企業の人がいっても良いのではないかな？
- ・よく分からない、もっと分かりやすく
- ・予想通り
- ・本学会に参加している男女比を気にしたことがなかったので興味深かった
- ・スピーカーやオーガナイザーによって分布に偏りが見られるのは面白い
- ・若手（学生会員）は特にまずはポスターという印象が個人的には強い、少し難しいかもしれないが発表回数と発表枠の移り変わりがどのようになっていくのか気になる
- ・男女の比率ではなく、働きやすさなど研究の世界のあり方を調査してもらいたい
- ・会場の参加者を見ると、もっと女性が多いと思った
- ・もっともっと学生ばかりでもいいように思う
- ・特に何も感じなかった
- ・生物系学生の男女比率と比べてどうなのかということも知りたいと思った
- ・女性が少ないのは、発表者にPI、ポスドクが多いため、学会というよりアカデミック全体の問題なのでは？
- ・こんな感じと思う、女性が結婚や出産を乗り越えて働き続けるのはハードルが高い、各大学がサポートする取り組みをしているが、それだけでなく学会としてもサポートする必要があると思う

【問 11】 その他、ご自由にどうぞ。

- ・もっと会場を広くすれば、もっと参加者が増えるはず
- ・若干、席が足りなかった
- ・会場が少し狭かった
- ・これまでの男女共同参画の企画（交流）の方が良かった。
- ・1日目は受付で参加引換券をもらう時にバイオテクノロジーセミナーの参加引換券を出すように言われました。2日目は、逆にバイオテクノロジーセミナーの参加引換券は必要ないと言われました。→引換券のことにに関して、スタッフの人によって対応が異なり、分かりにくかったので、今後改善を希望します。
- ・お弁当美味しかった
- ・楽しかったです、カニクリームコロッケはカニアレルギーなので、食べれなかった
- ・昼食が美味しくなかった…
- ・景気が良くなるといいな、と思った
- ・キャリアパスは、毎日に昼か夜に1回やった方が良いのでは

〈ケータイアナライズシステム〉 集計結果（四捨五入しています）

練習設問. あなたの現在の属性は？

・学部学生、大学院生……………	129	58.1%
・ポストク……………	23	10.4%
・助教、講師、研究員等の非PI職……………	34	15.3%
・准教授、教授、主任研究員等のPI職……………	24	10.8%
・企業、その他……………	12	5.4%
計	222	100.0%

設問 1. 所属している（いた）研究室を選んだ理由は？（※複数回答可）

・テーマや興味で選んだ……………	175	61.0%
・就職の有利さで選んだ……………	11	3.8%
・設備や環境で選んだ……………	40	13.9%
・PIで選んだ……………	39	13.6%
・その他（くじ引き等の偶然など）……………	22	7.7%
計	287	100.0%

設問 2. ご自身の現在の研究テーマに満足していますか？

・満足している……………	147	65.0%
・満足していない……………	27	11.9%
・どちらともいえない……………	46	20.4%
・いまは特に研究テーマがない……………	6	2.7%
計	226	100.0%

設問 3. 「設問 2」で満足していると答えた方に質問です。その理由を教えてください。（※複数回答可）

・面白い、興味をそそるテーマ……………	149	62.3%
・勉強になる、技術も学べるテーマ……………	44	18.4%
・論文が書ける、成果が期待できるテーマ……………	35	14.6%
・その他（コメントください）……………	11	4.6%
計	239	100.0%

設問 4. 「設問 2」で満足していないと答えた方に質問です。その理由を教えてください。（※複数回答可）

・面白くない、例えば再現性を見るテーマ……………	15	19.0%
・実現の可能性が低い難しいテーマ……………	10	12.7%
・意味不明、やる意義が理解できないテーマ……………	8	10.1%
・部分的で一貫性がない、他の人のお手伝い的なテーマ……………	18	22.8%
・その他（コメントください）……………	28	35.4%
計	79	100.0%

設問 5. 研究室や分野の変更についての考えを教えてください。

・研究室（大学）や分野の変更は考えていない……………	58	26.6%
・もっと面白い分野があったら積極的に変更したい……………	145	66.5%
・その他（あまり考えたことがないなど）……………	15	6.9%
計	218	100.0%

設問 6. ご自身（あるいは研究室）の現在の研究テーマに将来性はあると思いますか？

・ すごくある、ノーベル賞も夢ではない……………	14	6.4%
・ あると思う、このテーマでこれからもやっていけそう……………	128	58.2%
・ あまりない、面白い問題は近い将来解かれてしまいそう……………	46	20.9%
・ ほとんどない、ボスの趣味にすぎない……………	10	4.5%
・ よく判らない……………	22	10.0%
計	220	100.0%

設問 7. 現在のテーマとは違う、将来やりたい研究テーマを心に秘めている

・ はい……………	107	48.9%
・ いいえ……………	35	16.0%
・ いまはまだないが、必要性は感じている……………	77	35.2%
計	219	100.0%

設問 8. 次の中から将来さらに発展すると思われる分野を選んでください。（※複数回答可）

・ 脳の機能に関する研究……………	61	16.9%
・ ヒトのゲノムに関する研究……………	31	8.6%
・ iPS 等の再生に関する研究……………	47	13.0%
・ 食料、エネルギー生産に関わる研究……………	46	12.7%
・ コンピュータを使った情報学……………	56	15.5%
・ まだ姿が見えない新分野・異分野融合研究……………	108	29.8%
・ その他（コメントください）……………	13	3.6%
計	362	100.0%

コメント一覧

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
1		堀田節サイコーでした！
2	おとこ	データの話にとらわれること自体、思考を止めてしまうのではないのでしょうか。
3	凡人その 108	情報を利用しないといけないのはわかるのですが、なかなかパソコンの発展にすらついていけません。どうすればいいですか？
4	おとこ	生物学は結局は化学の現象の奇跡を見ているにすぎないと思います Sent from my iPhone
5	Y.F.	面白い vs 得意 二者択一になった場合、どちらを選ぶべきか…
6		信じられない
7	にゃんぱすー	就職も大切だとおもいます
8		比較的ハッピーな学生が分生に来てるんじゃないのでしょうか
9		日本人の「どちらともいえない」の多さ……
10	石器人	素子重視の研究が中心になっている。素子からシステム全体まで渡る研究がまだ実現できていない。
11	ooo	ウェット畑でドライもやると、たたかれます。それで方向性など、わからなくなってしまいます。大きく間違っていたらと不安です。
12	Drosophila	基礎研究においてどのモデル生物を選ぶかもテーマ選びに大事だとおもいます。ハエ、線虫、マウスなど少数のモデル生物が今後も繁栄しますか？新しいモデルを模索していくべきでしょうか？
13		PI がテーマ面白くないと思ってたら、ダメダメだろ
14		満足してると答えたけど、問 4 を答えないと次の間に進めなかったので「その他」にしました。
15	minoru	テーマに疑問を持ったので、ラボをかえちゃった。相談するのは、下っば学生には勇気が要ります。
16	めがね	企業的になると面白くなる
17		wet のひとが自分の調べたいことに関して dry やっていると、そんなことをやるより実験しろっていうことになるものなんじゃないでしょうか
18	名無しの凡人	今の研究に満足が多いっていうのは、井の中の蛙的な現象のような気がします。周りを見れば更に面白いこともあるのでは？現状に満足してはいけないとも思います。
19		まあ闇実験やれば好きなことはそれなりにできると思います
20	テーマに満足できない理由	先行研究が間違っていた。助教から卒論テーマをもらったが、教授が興味を持っていない。
21	Mon	研究のモチベーションをずっと保つにはどうしたら良いか…
22	おかね	予算が取りやすい研究をすべき？

No	ハンドルネーム	コメ ン ト
23		満足しているテーマって、将来性と相関あるんでしょうか？
24		学生で面白いと思うのはすでにわかっていることが多い気がする。
25		お手伝いの仕事を任されている人は情報収集のための学会に参加させてもらえないよね
26	電子	バイオインフォマティクスはパソコンとの睨めっこで、いまいちなんの役に立つのか不安になります…結果が出てピンと来ないことがしばしば
27	A	自分が面白いと思う研究と人の役に立ちそうな研究に乖離がある場合は？
28	医学部医学科 1 回生	まず研究というものに触れようと思ってます
29		その内容は競争相手が多いからダメだと言われた。
30	太郎	面白いテーマやってたけど結果出なかったよテヘペロ（やばい）
31	Kawakatsui	学生の身分として、上の人に自分の考えを伝えるのは勇気がある。上の人とはどんどん言って欲しいものなのか。
32	にゃんぱすー	修士で学振を取るためのテーマをやるのはどうなんでしょう？
33		隠れ実験しなさい、というボスは多いですが、してるの見た怒るじゃないですか？そのトラップやめて欲しいです…
34	きなこ	ボスの趣味に過ぎないという割合が少ないのに驚きました。本当ラボに依りますね。iPad から送信
35	薩摩富士	相談しようにも、ボスが癪癪（かんしゃく）を起こすせいで話になりません。
36	ブログ主	わしがそだてた
37		先進的な研究をしているところがいいのか、研究結果かでているところがいいのか。
38	おとこ	コミュニケーションは努力だ Sent from my iPhone
39	コンタクトレンズ	面白ければいいと思う。役に立つ立たないは後から誰かが決めるかと。じゃなきゃ大王イカの特集で日本は沸かなかったと思う。
40	将来性	次行くラボでは学進とれるテーマにしてくださいって言うつもりです。金がなきゃ博士まで行けないもん
41	いつも不安	面白いテーマは世界中にライバルも多い。競争になるとつらい。面白いだけじゃなくて、オリジナリティのある意表を突くような研究をしたい。
42		相手に面白いと思わせる伝え方をすることも大切
43		学振は計画も見られるから、博士3年で実現可能なテーマ（計画）で書くべし
44	おとこ	面白くもないし意味もない研究してる暇は人類にない
45		テーマの将来性がなくても、自分の将来があればいいのでは？
46	わんこ	自分で自身や周囲のモチベーションをあげられる人は、面白そうな研究をしてる
47	ktnyt	人類の役に立つ利他的なテーマと、自己満足のための利己的なテーマと。最終的にどちらが幸せになれるのでしょうか。
48	ぴよ	新しい技術や手法を使えば最先端だって豪語して、問題提起も目的意識もない研究テーマはしんどかった。
49		お下がりのテーマより、自分で de novo でやったほうが愛着が湧きますね
50	Y.F.	秘められない。
51		もう少しコメントに言及してください。質問疑問に答えなければければこのセッションの意味がないのではないですか。
52	おとこ	幸せは人による Sent from my iPhone
53	ボンジーン	教員なし、学生がPIのラボがあったら面白い研究が現れるのではと思ってますがどうでしょう？ っと、いう僕は凡人ですが苦笑
54	non	やりたいことの多さに比べて研究人生が短いので、さっさとやりたいことをやるべきかと悩む
55		将来性のあるテーマな上に、オリジナリティも必要となると、なかなか難しい。
56		ボスに言われたことをやらされる研究室は、前半で堀田先生の仰っていたとおり、“いいラボ”への移転を考えるべきなのでは…？
57	企人	ボスになったら、という話が多いですが、どれだけの方々が独立して研究テーマを選べる立場になれるのか気になります。
58	石器人	今日のお弁当を食べたら、1時間後に、どれだけ頭が働きがよくなるかが、個人個人について予測できるようになったらすごい。
59	Y.F.	選択肢に挙がる時点ですでに二番煎じなのでは…？
60	将来性	研究を続けるための金かとれるテーマと、本当に続けたいと思える興味のあるテーマ、どちらにすべきですか!?
61	j	PIが名誉のために三大紙ばかり狙うため、論文がなかなか通らない
62	せるげい	お弁当おいしかった^^
63		「ラボを移りたい。」と大事なメンバーから言われて、すっと受け入れる度量があるPIはどれだけいるか？